

ゆうだい21栽培管理情報 第3号

令和5年7月
富山農林振興センター
富山市農業協同組合

生育概況

生育調査ほにおける幼穂形成期は、7月9日となりました。

今後平年並みの気象で経過した場合、出穂期は8月1日頃と予想されます。

ゆうだい21の生育調査状況(7/11現在) ※近年値はH28~R4

	田植日	草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	葉色	幼穂形成期	出穂期
R5年	5/5	76.0	484	3.8	7/9	8/1頃
R4年	5/5	84.0	417	3.8	7/9	7/30
近年	5/10	77.9	445	3.9	7/13	8/4

1 穂肥

(1) 基肥一発肥料栽培の場合 ⇒ **原則として穂肥は必要ありません!**

- ・出穂7~10日前頃に葉色を確認し、葉色4.0を下回る場合は、出穂期の3日前までに追加穂肥を施用し、穂揃期の葉色4.2程度になるよう誘導しましょう。

追加穂肥施用の目安

施肥時期 (出穂期の場合)	肥料名	施肥量
出穂7~3日前 (7/25~29頃)	追肥3号	7kg/10a

※極端に早い穂肥は過剰粒数による品質低下や倒伏を招く恐れがあるため注意しましょう。

(2) 分施肥栽培の場合

- ・施用時期は、幼穂形成期から8日後(幼穂長1.5cmの時期)に穂肥施用の目安を参考に穂肥を施用しましょう。

穂肥施用の目安

肥料名	1回目穂肥 (幼穂長1.5cm)	2回目穂肥
	幼穂形成期の8日後 (7/17~19頃)	1回目から1週間後 (7/24~26頃)
追肥3号	10kg/10a	12~13kg/10a
LP追肥38号	15~18kg/10a	—

※生育が旺盛な場合は、1回目穂肥を3日ほど遅らせるとともに、施肥量を「追肥3号」で7kg/10a程度に減らしましょう。

2 今後の水管理

【幼穂形成期以降】

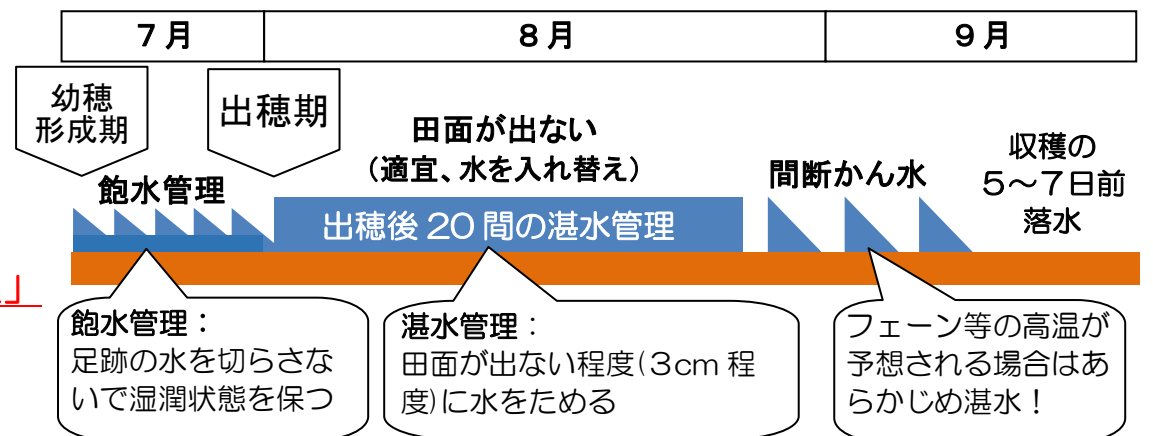
- ・田面に常に水がある「**飽水管理**」

【出穂期から20日間】

- ・常時水が3cm程度溜まっている「**湛水管理**」

【収穫の5~7日前まで】

- ・落水を急がず「**間断かん水**」



飽水管理：足跡の水を切らさないで湿潤状態を保つ

湛水管理：田面が出ない程度(3cm程度)に水をためる

フェーン等の高温が予想される場合はあらかじめ湛水!

3 病虫害防除

注意

今年も斑点米カメムシ類が多発生!

- ・本田防除は、穂揃期(8/4~6頃)と傾穂期(8/11~13頃)の基本防除を徹底しましょう。
- ・カメムシ類の防除効果を高めるため、散布間隔は7日間を目安とし、10日間以上あけないようにしましょう。また防除の際には畦畔にも薬剤がかかるように散布しましょう。
- ・やむを得ず畦畔にある穂の出ているイネ科雑草を刈る場合は、本田薬剤防除の直前に行いましょう。

雑草地カメムシ密度調査(6/27)
・発生地点率 100%(平年値: 93%)
・1地点あたりすくい取り頭数 10.4
(平年値: 1.5)

防除時期の目安

防除体系	防除時期	農薬名	対象病虫害	10a当たり散布量
粉剤	穂揃期	ラブサイドキラップ粉剤 DL	いもち病、カメムシ類、ウンカ類	4kg
	傾穂期	スタークル粉剤DL	カメムシ類、ウンカ類	3kg
液剤	穂揃期	ラブサイドK2フロアブル	いもち病、カメムシ類、ウンカ類	薬剤100ml、水100ℓ 1000倍
	傾穂期	スタークルメイト液剤 10	カメムシ類、ウンカ類	
粒剤	出穂10日前	フジワンラップ粒剤	いもち病、カメムシ類、ウンカ類	4kg

※防除に当たっては、必ずラベルを確認し、農薬使用基準を守りましょう。

※農薬の散布は、使用基準を必ず守り、風速・風向きに注意し、周辺への飛散防止に努めましょう。

農作業の際は、こまめな水分・塩分補給や適切な休憩など、熱中症対策を徹底しましょう!

熱中症注意